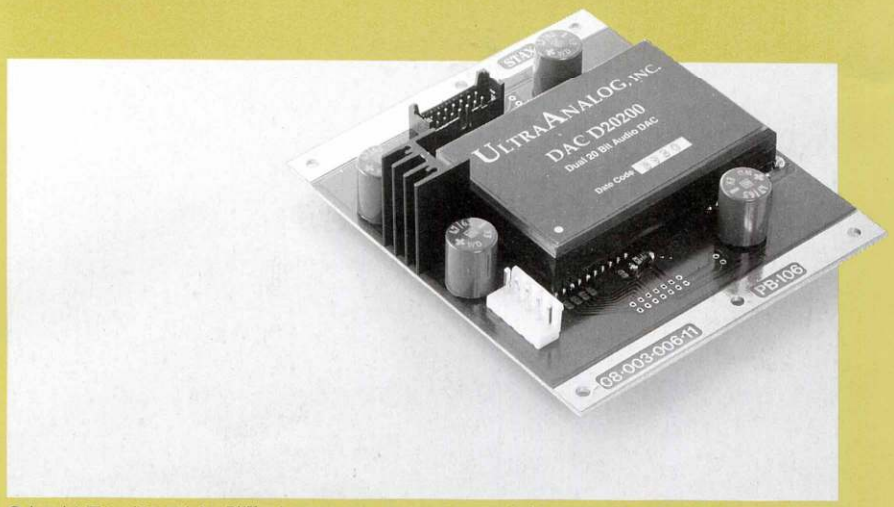
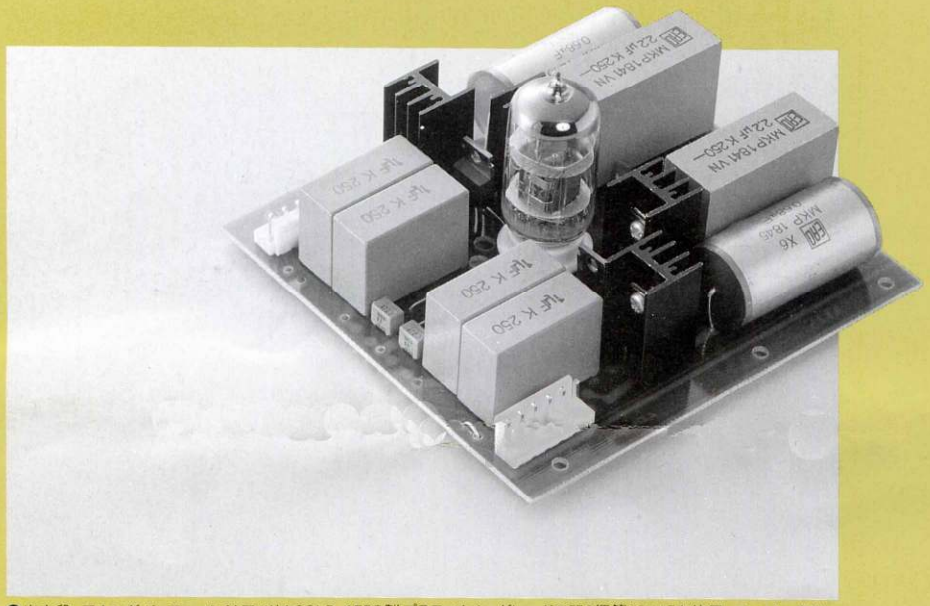
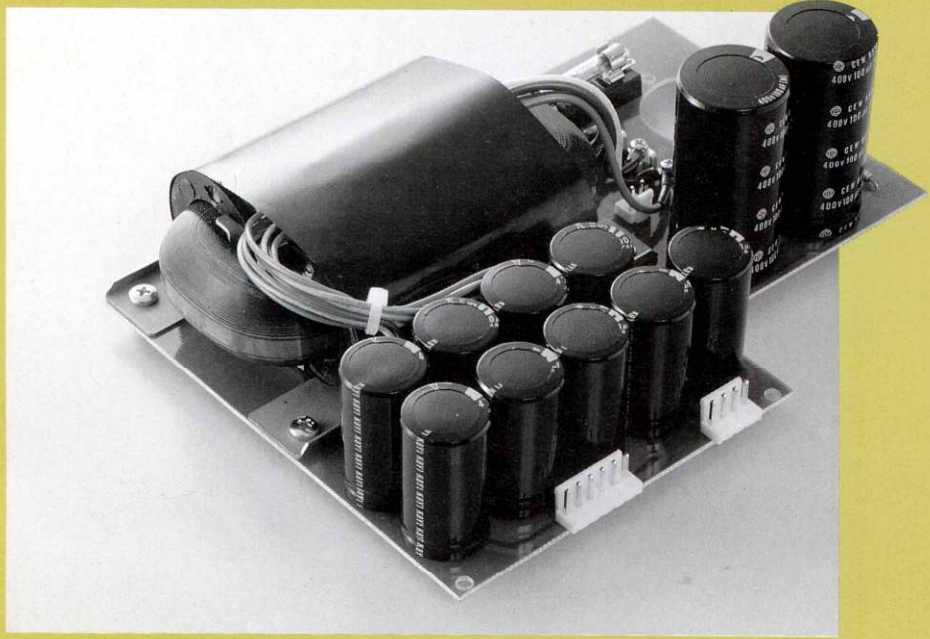


●音の良し悪しに極めて大きい影響のあるDAコンバーターには、20bitの精度を誇るアメリカ製高精度DAコンバーターをチャンネル当り2ch分使用し、インバーティング(反転)アンプ無しでバランスアウトを実現。



●出力段、アナログバッファーにはアメリカGOLD AERO製プラティナム・グレードの双3極管12AX7を使用。スーパーカソード・フォロアー・プッシュプル回路を形成。正確でしかも音場感豊かな再生音を再現。



●左右各チャンネル独立のDAC/ANALOGセクションの為の電源部は大型のシームレストランスと高品質ケミカルコンデンサーを使用し、スタックス独自のローノイズ・低インピーダンス・プッシュプル電源を構成している。(写真は左ch用を示す。)

●CDプレーヤー、DAT、BS(Broadcast Satellite:衛星放送)と、ディジタルを録音、放送、通信に使う機会は益々増える一方です。しかし、すばらしい音楽をディジタル録音し、再生するのに、かなり贅沢なフォーマット(規格)や再生技術を必要とします。それは、世界の名画を本にまとめるのに、最新のカメラやレンズ、フィルム、印刷技術を必要とするのに似ています。D/Aプロセッサー〈DAC-X1t〉は、ディジタル信号をアナログ信号に変えるための装置に過ぎませんが、その変換を"より正確に"、音楽の持っている"音楽らしさを失わず"に変換するために誕生しました。そのために、8倍オーバーサンプリングのディジタルフィルターと、贅沢にも高精度の20bitDACを各チャンネル2ch使用し、出力段にはアメリカGold Aero製の12AX7 プラティナム・グレードを採用しました。電源は、ディジタル部にはディジタル部専用の電源トランスとコードを、アナログ部DAC部には左右別々にトランスとコードを用意。スタックス・オリジナルのプッシュプル電源を配しました。また、シャーシーには磁性体を避け、アルミニューム合金を採用。特に、底板とフロントパネルには10mm厚を使用して、外部からの振動に対処するとともに、各部品の振動を他へ伝えないように配慮されています。外観上、スタックスの特長となった脚部は、やはり機械振動をアイソレート(遮断)する目的と、3本使われている電源コードを電源トランス近傍からじかに取り出すために用いられています。抵抗や、コンデンサーなど電子部品には、これまでスタックスがCDプレーヤーやパワーアンプの開発で得たノウハウが生かされ、特製のタンタリューム抵抗、ドイツ製のポリプロピレン・コンデンサー、電解コンデンサーを各所に採用。電気の流れる導体や電線にもスタックスの経験がフルに生かされ、随所にPC-OCC線が採用されました。上に述べたように電源は、DAC-X1tにとって基礎部であり、これがしっかりしていないと、せっかくの音楽信号が汚されたり、たっぷり出るべき低音が痩せて聞こえたりします。DAC-X1tの電源トランスは、特に大型のシームレストランスがDAコンバータ・アナログ回路用に(ディジタル・プロセッサー部とは別に)左右各1個づつ使われ、電源を通じて左右の音が混ざり合うのを防ぐと同時に、ディジタル・ノイズのアナログ信号への混入を防いでいます。この効果は極めてはっきりと聞き取れます。スタックスでは過去にCA-Xという左右まったく別の大型電源を持ったプリアンプを製品化したことがありますが、このDAC-X1tはこのCA-Xの思想を甦えらせたD/Aプロセッサーといえるでしょう。

「この録音はこんなにすばらしかったのか」と感じていただける ―――― そんなD/Aプロセッサーです。